

新潟脳神経研究会第 311 回例会

日時：平成 29 年 6 月 27 日（火）午後 6 時～
場所：脳研究所 1 階 検討会室

（司会：棗田 学）

1) 覚醒マウスのフラビン蛋白蛍光 イメージング

（30分）

吉武 講平（新潟大・脳研・システム脳生理学分野）

最近の神経生理研究では覚醒動物での記録が主流になってきている。我々の研究室でも覚醒状態でのフラビン蛋白蛍光イメージングに取り組み始めた。今回は麻酔下と覚醒下で記録した脳活動の比較と、覚醒下だからこそ見ることができた脳活動についても報告する。

2) 小児脳腫瘍細胞株樹立の試み

（15分）

棗田 学（新潟大・脳研・脳神経外科学分野）

我々は以前より手術摘出組織から培養細胞株を樹立しているが、最近良いキットが見付かり、成功率が格段に向上した。その方法で脳幹グリオーマや choriocarcinoma 細胞株を樹立し、脳研内外で共同研究を展開し、各々の腫瘍の新しい治療法を模索している。

3) Epigenetic Targeted Therapy for Pediatric Brain Tumors

（45分）

橋詰 倫太郎

（米国ノースウエスタン大学 脳神経外科・生化学・分子遺伝学, PI）

橋詰先生は脳幹グリオーマや ATRT の translational research の第一人者であり、マウスモデルの作製から治療実験まで多くの経験がある。脳幹グリオーマを含む diffuse midline glioma はヒストンの変異を有し、それによりエピジェネティックな変化をもたらすことが知られている。エピジェネティクスを標的とした、小児脳腫瘍の新しい治療展開について解説して頂く。

どうぞ奮ってご参加ください。

（担当：脳神経外科学分野）

新潟脳神経研究会幹事代表：那波宏之